

カルチャー

映画『カラコルム』と『花嫁の峰チヨゴリザ』を一般上映

平井一正

1955年、京都大学は木原均教授を隊長とする「京都大学カラコルム・ヒンズークシ芸術探検隊」を派遣し、パキスタン、アフガニスタン、イランなど広範囲に学術調査を行なった。今西錦司を隊長とするカラコルム支隊はバルト口氷河を遡ってコンコルディアに達した。そのとき同行した日映新社、中村、林田カメラマン撮影による映画が「カラコルム」である。



ベースキャンプから望むチヨゴリザ

それから3年後、1958年、いろいろな陣痛の苦しみを経て、京都大学学士山岳会は、桑原武夫を隊長とする登山隊をカラコルムのチヨゴリザ(7654m)に派遣した。先年のアンナブルナII峰登山の不成功のためにも、今度こそ成功しなければという期待に込めて、隊は初登頂に成功する。私は藤平正夫隊長とともに、この初登頂者となる栄に恵まれた。それだけに思い入れも深い。

そのとき日映新社から派遣された潮田カメラマン撮影による映画は『花嫁の峰チヨゴリザ』として、1959年、半世紀前に一般公開され、『カラコルム』と同様文部省特選となり、多くの市民をはじめ中・高生が鑑賞した。映画は前年に遭難したヘルマン・プールのテント発見のシーンや、5000m望遠レンズで登頂の一部始終をカメラが追いかけ、迫力ある映像や、また画面に流れる芥川也寸志の音

楽が特に印象に残る。

このほどこの2つの映画の放映権を京都大学が買い取り、昨年秋季に創設された、京都大学研究資源アーカイブの映像ステーションで一般公開されている。20人ほど入れる部屋で、大きな画面で見ることができ。上映は『カラコルム』が10時15分、13時10分、『チヨゴリザ』が11時45分、14時35分(毎日上映、入館無料)である。

映像ステーションは、新設の京都大学稲森財団記念館にある。なおこの記念館内には、ほかに京都賞受賞者を紹介する部屋や今西錦司氏らによるアフリカ研究、東南

アジア研究、考古学研究の成果をはじめ、西田幾太郎、湯川秀樹氏たちの足跡を辿るビデオなど14番組があり、それぞれ10分程度を選んで見ることができ個人閲覧用のブースもある。

開館時間は10時～16時、休館日は、日・月・祝日・京大創立記念日(6月18日)と年末年始。場所は、川端通り荒神橋東詰めで、京阪電車「神宮丸太町駅」5番出口北へ徒歩5分、または市バス河原町通「荒神口」下車東へ徒歩5分。問い合わせは京都市左京区吉田 京都大学稲森財団記念館 ☎075-753-7741へ。

トピックス

韓国人登山者へ登山マナーの呼びかけ

内野慎一・かおり

情報発信のきつかけ

私たちは韓国語登山情報HP「キルチャビ」を発信しています。キルチャビとは「みちしるべ」という意味。韓国留学経験があり、言葉や文化が分かるかおりと、PC担当の慎一との共同作業です。

上高地の山研で働くようになって、韓国人登山者の多さに驚き、現状を知りました。個人で来る人は韓国語情報の少なさに苦労しているようで、上高地や山で泊まることを知らずに来た人にも会いました。韓国の登山ツアー客のな